

## 令和6年度 第3回 三ヶ日西小学校学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年2月7日（金）13時30分～15時30分まで
- 2 場所 浜松市立三ヶ日西小学校 会議室
- 3 出席委員 河合 成典、藤山 美恵子、河合 文月、黒柳 千賀子  
伊藤 暢洋、山本 修平
- 4 欠席委員 酒井 恵子
- 5 オブザーバー 井口 敏浩（三ヶ日支所職員）
- 6 学校支援コーディネーター 池田 易史（本日の議長）
- 7 学校 宮田 真由美（校長）、寺田 善一（教頭）、  
竹内 淳（教務主任）、福島 康良（生徒指導・CS担当）  
進士 義光（CSディレクター）
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項
  - （1）「本年度の取り組み」と「学校関係者評価」  
学校評価の分析結果と本校が考えている改善策  
※いじめ防止基本方針に基づく取り組み状況や目標達成状況についても含む  
→今後の改善策について運営協議会が考えうるアドバイス
  - （2）次年度の学校運営の基本方針の概要説明
  - （3）学校運営協議会の自己評価
  - （4）連絡事項
- 10 会議録作成者 CSディレクター 進士 義光
- 11 会議記録

司会の教頭から、委員総数8人のうち7名の出席があり、過半数に達しているため  
会議が成立している旨の報告があった。

会長河合成より過日行われた「きらきら発表会」は多くのボランティアが参加し、さらに  
顔見せもありすばらしい会だった、支援体制ができていると感想が述べられた。

### 熟議

- （1）教務主任竹内より学校評価報告書に基づき自己評価の説明、生徒指導福島より本校の  
いじめ防止基本方針の説明をした後、委員から以下の発言があった。
  - （山本）登校中の児童から挨拶してくれる。横断歩道を渡った後にちゃんとお辞儀をするなど  
ルール・マナーを守っている。
  - （藤山）中学生の挨拶が良いのは小学校での教育・指導の成果の表れではないか。  
地域も大人も一層挨拶していかなければならない。
  - （河合<sup>文</sup>他）挨拶する相手が不特定（不審者含め）の大人という場合もあり注意が必要。  
相手が安全な大人か判断できる感覚・感性が必要。
  - （池田）「家庭学習に前向きに取り組んでいるか」で職員の肯定が前年より下がった理由は？
  - （職員）2年目を迎え前年が高評価だった故、職員の期待値が高まった可能性がある。  
家庭学習が二極化しており、うまく出来ていない児童が不登校のリスクにも成り得るなど  
色々考えた結果、職員の肯定が低くなってしまったのではないか。
  - （校長）来週、学校説明会を行うので家庭学習の大切さの大原則を伝えていきたい。  
自ら課題を見つけ計画的に取り組める子の育成を目指した授業を実践するため、学習  
ボランティアを積極的に活用したい。
  - （福島）いじめ防止基本方針に基づきウェルビーイングを目指し、温かい人間関係を構築する。  
生徒指導に励みいじめを起こさせない取組み、起こっても改善する取組みを実施する。
- （2）校長宮田より次年度の学校経営構想を説明。この中で「学力の保障」を最重要課題として  
いると述べた。この後、委員から以下の発言があった。

(藤山) 発達支援学級の取組みは順調に進んでいるのか？

(校長) 少人数クラスに移り課題が出来るようになったなど成果が出ている。

(河合成) 来年度より部活動がなくなることで児童との時間がより取れるのではないか？

(校長) 本校の職員は元々児童に対し丁寧に接しているし、休み時間等を利用し授業で分からないことを説明している。

(池田) グランドデザインが昨年と比べ内容が濃くなっているのは「よい方向です。」でいかがでしょう？

\* 次年度の学校運営構想について、全員異議無くこれを承認した。

(3) 会長より学校運営協議会の自己評価について以下の4項目を述べた。

<評価項目1>

○学校運営の基本方針に沿った取組みが適正に行われていた。

○学校生活や授業参観を通して、またいじめ防止基本方針に基づいて、常に子供たちの未来を育てる意識と温かい人間関係のため日々学校運営がなされていることが伝わってきた。

<評価項目2>

○承認した学校運営の基本方針の中で、下記の通り特に挨拶の充実と家庭学習の意識改革について熟議を進めることができた。

○挨拶は学校の継続支援で成果が上がっている。そこで、むしろ挨拶をより一層今後自然にしていくには、地域の大人の協力が必要だと結論付けた。よって大人たちの各立場で推進協力できる手立てを今後も模索して行ってほしい。

○保護者は自ら課題を見つけ計画的に取り組める子を育成する必要性を感じていることが分かった。子供を育てる場としての家庭学習支援は、保護者の協力が大切である。そこで、家庭により時間的、経済的、教育的に差がある事実を踏まえながらも、学校は保護者に賛同を得られるよう継続周知して行ってほしい。

○CSコーディネーターが教育活動ボランティア導入措置や配置を担ったことで、学校への支援体制ができつつある。今後もより一層持続可能な体制を作っていきたい。

<評価項目3>

○CSだよりとして学校運営協議会の様子を伝え、周知を図った。ホームページには開催通知や議事録を掲載した。ブログによる学校の様子も紹介されていたり、会の熟議の様子も広く周知されていた。これらのことから、協議会での協議結果について十分な情報発信が行えていたといえる。

<評価項目4>

○本校がより一層学校運営の基本方針に沿った取組みを進めていくために、ボランティア活動を深化させていく。主に「ボランティアの采配や受入等の手立てを負担軽減する方法を見出し、持続可能な形を目指すこと」や「事業内容を充実させるため、事前準備や環境整備自体の活動を立ち上げること」に焦点を当てていく。

## 連絡事項

(1) 委員について

学校運営協議会メンバーの一部変更の報告があった。

(2) 次年度見通しについて

次年度の開催日時の報告があった。

特記事項として協議会第1回は新1年生を迎える会参観、第3回は6年生を送る会参観の機会を通して、子供の年間の成長を見届ける。